

多摩川河口でヘダイの採捕

6月14日に多摩川河口海域で行った三枚網調査で、ヘダイ（図1）がまとまって7尾採捕されました。全長は24.8～27.0cm、体重は258～356gで、成熟前の未成年魚でした。ヘダイはクロダイに比べ沖合に生息しているため、当協会の調査でも過去2018年8月に羽田沖で1尾採捕されたのみで、湾奥ではわりと珍しい魚と言えます。しかし、幼魚の時期には汽水域で生活することが知られており、今回の採捕も成長過程の一時期に河口域に群れでいたところをまとまって採捕されたものと思われる。当日の調査に協力していただいた芝漁業協同組合の山田和夫さんによると、三枚洲周辺でも漁獲されたことがあるそうです。

このヘダイはタイ科の魚で、同じくタイ科のクロダイ（図2）やキチヌ（図3）に似ていますが、頭部が丸みを帯びていることや、頭から尾部に向かって黄色の細い縦縞が何本もあることで見分けがつきます。また、クロダイに比べ、どちらかといえば南方系であり、分布の中心は西日本となっています。

最近、東京湾では水温環境の変化に伴い、南方系のキチヌが多くみられるようになってきていますが、今後このヘダイも増加してくるかもしれません。情報があればお寄せください。



図1 多摩川河口で採捕されたヘダイ
(尾叉長 22.2cm、体重 258g)
(2024年6月14日 三枚網で採捕)



図3 採捕地点（多摩川河口）



図2 クロダイ

図3 キチヌ